

2023年2月10日(金)9:00～CRTスタジオで収録

第一志望校を決定後、志望校変更をせずに、1年・2年かけて第一志望校に合格を目指そう

開倫塾

塾長 林明夫

1. (1) ①最も大切なことは、何のためにその試験を受験するのか、その目的を「明確」にすることです。
    - ②何のために「～校」という中学校・高校、「～大学」という大学の入学試験を受験するのか。
    - ③国家試験や採用試験を受験するのか。その目的を「明確」にすることが第一です。
      - 具体的には、その学校や大学に入学し、また、その国家試験に合格し、その職場に就職し、何を行いたいのか。これを「明確」にすることが第一です。
  - (2) ①なぜその目的を「明確」にする必要があるのか。目的を「明確」にせずに、入学したり、国家試験に合格、就職試験に合格するとどうなるか。
    - ②「合格」することが「目的」の場合には、こんなはずではなかったなどと、退学・退職するケースが多いからです。
      - 折角、国家資格を取得しても、十分活用しない場合が多いようです。
    - ③ですから、第一志望校を決定する前、また、国家試験の受験を決定する前、就職試験の受験を決定する前には、事前に十分その内容を調べることをおすすめします。
      - その学校に行き何を学ぶのか、その国家資格を取得し何を行うのか、そこに就職してどのような業務を行うのかを、徹底的に調べ、十分に納得してから、受験を「決定する」ことをおすすめします。
  - (3) ①その学校・大学、国家資格、就職先での仕事など、一つ一つの「価値（大切さ）」を、まずは十分理解。
    - ②自分にとってどんな意味があるかを考え、自分の力で受験するかどうかを決める。
    - ③「自己決定」することをおすすめします。
      - これが、受験することの「目的」を考えるということです。
2. (1) 受験する
    - ①「学校」「大学」、
    - ②「国家試験」「資格試験（英検や漢検、数検、日本語検定なども含まれます）」、
    - ③「採用試験」の目的（価値・大切さ、自分にとっての意味）が「明確」になったら、次はどうするか。
  - (2) ①「いつ」「どこで」「どのような形」でその試験があり（試験の日程・場所・形式）、
    - ②何が出題されるのか（出題教科と出題範囲、出題レベル）を、

③十分に調べ、これから受験の日まで何をどうしたらよいか、そのスケジュールを具体的に考えること。これが第二です。

(3) そして、どこでどのように受験の準備をするのか。これが第三です。

3. (1) ①公立中高一貫校入試、私立中学校入試、

②高校入試、

③大学入試などの入学試験は、「第一志望校」の決定は早ければ早い方がよいに決まっています。

(2) できれば、受験2年前、遅くとも、受験1年前に、「第一志望校」を「自己決定」する。

(3) そして、「自分は受験生だ」と「自覚」して「受験勉強に励む」ことが大事です。

4. (1) 「受験生としての自覚」をもって、「自分ができること」「自分が得意なこと」「今しなければならないこと」は何かを考え、「自己決定」する。

(2) そのうえで、「受験生として、今しなければならないこと」を「優先順位をつけ、粛々と行う」「自分なりのルールを決めて、秩序をもって自分から進んで主体的に行う」「行うべきでないことは、行わない」「自律的に活動する」ことです。

(3) 来年1月の大学入試、公立中高一貫校入試、2月の特色選抜、3月の県立高校入試まで、あと1年です。小5、中2、高2の皆さんは、受験学年、新学年の4月になったら受験勉強をスタートしようと思っている人が大部分だと思います。果たしてそれでよいのでしょうか。

5. (1) 受験勉強のスタートは、学年末試験が終了したその日から行うことをおすすめします。

(2) 4月の新学年まで待つ必要はありません。

(3) もっと言えば、学年末試験の内容は、入学試験の範囲なので、来年1月～3月の受験勉強のつもりで、この「学年末試験」と取り組むべきと考えます。

6. (1) 高校の「推薦入試」「特色選抜」、大学の「指定校推薦」「公募推薦」では、中学校・高校の「学業成績」が重要視されます。ですから、「学年末試験」「新学年の定期テスト」の結果は、「入試そのもの」といえます。

(2) 高校の「推薦入試」「特色選抜」、大学の「指定校推薦」「公募推薦」で進学したい皆様は、「学年末試験」と「新学年の定期テスト」は「入試そのもの」だと思い、100点満点を目指してください。

(3) 英検・漢検・数検など検定試験も、それらの入試では高く評価されます。「入試だと思い3大検定に取り組む」ことをおすすめします。

2023年2月10日 16時33分